



みずみどり

2001年9月15日

第26号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

赤塚公園自然発見ウォーキング2001年

10月28日(日)10時から3時

好きな時間に美術館前からスタート

みんな来てね！！



紅葉、ドングリ、カラスウリなどなど見ながら、赤塚公園とその周りを歩く「自然発見ウォーキング」はゆっくりと赤塚

公園の秋を、楽しみながら歩きます。どんな発見があるのでしょうか？ 今年はボーイスカウトの皆さんにも協力してもらって、新しい企画もあります。「落ち葉あてゲーム」です。参加する子ども達には、フィールドノートやトンボシートの景品もあります。学校あてに参加要請もします、近所の子ども達にも声をかけてみてください。

草地では、竹を使って竹笛、竹鉄砲、鍋敷など作ります。リース作りなども検討中です。顕微鏡も用意します。顕微鏡でのぞく虫の世界は、ジュラシックパークのようです。

当日の準備や作業を手伝って頂ける方も募集しています。



対象： 大人から子供までどなたでも参加出来ます。

参加費は無料

持ち物： 落ち葉やドングリを入れる袋、竹の工作にはナイフと軍手があると便利

小雨の場合は実施します。

連絡先： 瀬田 (090-1423-9894)

坂本 (090-4618-1295)

赤塚自然池湿地帯づくり

7月29日の作業

今回の改修工事は5月13、20日両日に2回のかいぼりを行い、湧水の流れこみを止めたことにより周囲に水草や陸性の植物が芽を出してきました。

この間に7月9日、“これからの赤塚自然池を考えよう”と検討会も開かれました。

その中で色々意見が出ました。

毎年かいぼりを行う事で、確かに私たちが排除したい生物は取りのぞくことが出来てきたかも知れないが、他の生きものにも相当なダメージを与えて来たと思う。

私たちが辛抱、手を貸さず、もう少し自然に任せても と。

箱船（ヤゴ等の小生物や水草の芽等を守る為の試験）の中には、今年はヤゴが孵化していました、又私たちの思惑に反してザルガニにも良い環境らしく沢山生息していました。狭くても水草が多量にあれば共存出来ていて、箱舟から飛び立ったトンボのヤゴの脱け殻が何個も見られました。

池の広場側にも湿地を造ることにより、水草が生えやすくなり、公園に来た人たちにも水草を楽しんでもらえるのではと、云う事で今回の改修工事が計画されました。

朝、池の所に行くと、既に坂本さんや水研の尾坂さん達数人がいらして居て、トラックで赤土が運ばれて来ており、又荒川から採ってきた表土や水草等も池の縁に置かれていました。

土嚢を造る準備作業に入っており、私もトラックの上で積まれている土で土嚢造りの手伝いを始めました。

そうしているうちに10時頃になると、多数の会員と共に、若く頼もしい植田さんの息子さんやその友達が参加して来てくださり、総勢18人程になりました。

池の中に造る湿地帯の、半島の傾斜地の位置、形、大きさなどが確認されあと、作業分担も土嚢を造る人、運ぶ人、池の中で土嚢を積み上げて行く人と、役割分担が決まりいよいよ作業開始。

作業はみんなで、和気あいあい、冗談を云いつつ楽しみながら作業が進んで行きました。池の中に土嚢を積み上げていくのが意外に大変、池の淵は傾斜がきついのと、その傾斜面に軟らかい土があり、その上に土嚢を積み上げると土が滑り、池の深い方向に向かってずれ込んで行きます。

半島の形に外周が出来たところで、トラックを池の近くまで寄せ、トラックの上から土を

バケツリレーならぬ蓑リレーで、土手の内側部分に、又池の中央に向かって傾斜が付くように土を入れていきました。

造成が出来たところで荒川から採ってきた土（色々な水草の種や根が眠っているのを期待して？）播き、又一緒に採ってきたコウキヤガラ、サンカクイ、キシウズズメノヒエ等の水草類を移植して、今回の改修工事が完了となり、池に水を入れることになりました。

いよいよ池の方に湧水を通そうと、かいぼりの後下水に流していた水を水路に切替えたところ思うよう水は流れて行きません。

水を止めて1ヶ月余り、水路はすっかり草で塞がれ、今度は水路の整備となり草を薙り、水路の底にある落葉を掻き出し、ちよろちよろ頼りない流れの湧水を池に向かって1時間余り導いて池に流れこんだ時は思わずバンザイ！

流れこむ水を見ながら片付け、最後にビールでご苦労さん、解散となりました。

湿地帯に生えてくる水草を楽しみに帰路につきました。



ところが・・・攻防戦は続く

8月26日、ウォーキングの下見を兼ねた現場調査で、ザリガニがちよろちよろしているので、カニカゴを入れたところ、ザリガニ38匹を捕獲。9月9日再び、捕獲カゴを設置して今度は50匹かかった。かいぼりしたのに、いるんですね。水草もキシウズズメノヒエのみになっていました（大西 優）。

水を入れる前の湿地状態のときにやってきたコサギ（6月7日）。天敵の水鳥がせっせと食べてくれことを期待しましょう（写真は滝川さん）

板橋の昆虫を調べる トラップ編

トラップにも色々種類があるが、今回の主題はベイトトラップである。ベイトトラップというところであるが、餌入りのワナを地面に置くだけの話である。地面を這い回って餌を捜す昆虫を捕獲する道具である。飛び回る昆虫は日中活動するものが多いが、地表面にいる虫は夜行性のものが多い。このトラップを2、3日仕掛けておけば、ふだんは目に付かない昆虫にお目にかかるということだ。

トラップ調査でわかること

地表面で生活する昆虫が最も影響を受けるのは、植生や土壌の固さなど地表面の状態である。当然のことであろうが、去年、今年のトラップ調査でも裏付けられた。樹林内であっても表面が踏み固められ、植生がないところにしかけたトラップには昆虫が非常に少なかった。

草原か森林かによって種類は異なっている。草丈によっても種類や個体数が異なるようであるが、我々の調査でははっきりした傾向はつかめなかった。

トラップの設置個所の状況をより詳しくあらわす方法を考えなければならないが、我々素人にはむずかしいと思う。植物群落の種類、被度、土壌の固さ、湿度などが考えられる。

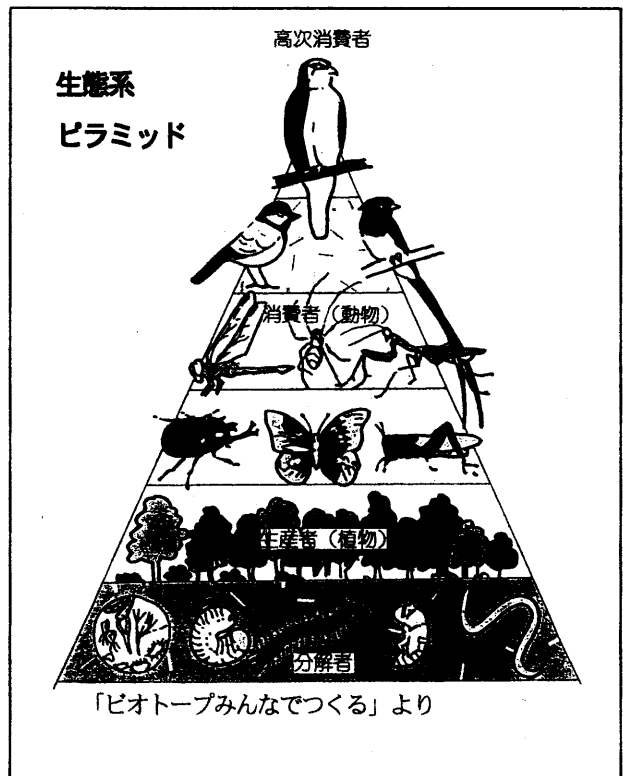
環境を指標する昆虫たち

環境により見られる昆虫の種類は違っている。ということはどんな昆虫がいるかわかれば、その場所の環境が判定できるということである。自然をみるものさし、指標生物という考えである。ある生物が住んでいるか、どの生物の個体数が多いかなどにより、その土地の気候や自然度(都市化度)、大気汚染の程度など、諸々がわかるという具合である。

板橋区の公園や、緑地の自然度を計りたい、これが我々が行ったトラップ調査の目的の一つである。では板橋各地の自然度はどうなのであろう。結果はまだまだである。ようやく入口に立った程度である。自然度という概念のあいまいさ、指標の昆虫には何を選ぶか、計算方法は、と難題はつきない。

自然度とはなにか

自然が豊か、日常よくいわれる言い回しであるが、人によりその指し示すものは大



であるが、人によりその指し示すものは大分異なるようである。しかし自然についてある程度の経験を持つ人たちが、示すものは共通性を持っている場合が多い。具体的にいうと、自然を構成する動植物の種類が多く、特に動物については特定の1, 2種ばかりがやたらと多いのではなく各種が割合均等に在る、ということである。

これは砂漠や極地、高山を除けば世界中ではほぼ共通である。自然度とは生物群集の多様性で計ることができる、といていいであろう。

都市化に強い昆虫たち

都会で目につく昆虫は種類数が少なく、同じものばかりである。東京で出会う虫は、ヤマトシジミ、アブラゼミ、ツツレサセコオロギなどが特に多い。生物にとって都会は砂漠であり、極地なのである。極限の環境に生きられる昆虫が見られる場所、これが大都市である。

一方都会化が進めばすぐにいなくなってしまう昆虫も多い。単純に種類数で計ると微妙な都市化の程度がわからなくなってしまう。都市化に対する耐性に応じて種類毎に点数をつければわかりやすくなるであろう。点数の設定が難問であるが。

指標昆虫の選定

どの種類を指標に選ぶかについては、様々な参考書もあるが、果たしてそれが日本中どこでも通用するのか疑問である。北海道と沖縄ならその違いは明瞭であり、だれにも異論はないであろう。ところが私がみた限りでは東京と横浜で比べてみても少し違いはありそうである。蝶でみるとヒメジャノメやモンキアゲハに差があるようである。もっとも私の見た横浜の資料がやや古く、あまり正確にはいえない。平塚市のアシナガバチ類と東京のものも差があるようである。板橋では町中に多いコアシナガバチが平塚では少ないようである。東京の町中に普通のミンミンゼミも、大分離れてしまうが名古屋までいくと町中では見られないようである。

結局、我々が行ったトラップ調査は指標昆虫の選定、点数の設定のための基礎資料なのである。自然度を計る作業はまだ先のことなのである。次回には指標昆虫の選定、点数の設定についての私の試案を書いてみたい。

(釣巻岳人)

赤塚自然池について

木陰の多い赤塚自然池は、池沼型の止水池なので、水面型と湿地型のトンボのよい生息地になると思います。現在池の周りの植物は良好だと思いますが、池の中の水生植物が足りないのではないのでしょうか。多種多様な植物が池のなかに増えれば、生物もまたおのずと種類も数も増してくると思います。

今の池は、落ち着いた状態になっているので、池を荒らすかいは避けて、害になる動植物の駆除の方法を考慮すべきかと思います。これからは年とともに生物が増えてくることでしょう。手入れをしながら見守っていこうではありませんか(真田 喜代治)。



城址草原ビオトープ の植物

草原ビオトープと言っているところは、城址の柵で囲っただけの草原です。柵で囲った平成12年4月以来草刈りをしていません。たったそれだけで、昨年夏、ここにはカマキリやクモなどの昆虫が驚くほど増えることがわかりました。

このように人間が手を加えないでいると、植物はどのように移り変わっていくのか、調査し、記録していくことになりました。

島井さんの指導の下に、調査は、草原全体の傾向を見ると共に、1区画(1m×1m)の植物の種類とその量(被覆面積)を調べます。8月5日、最悪の猛暑ではなかったものの、木陰の無い草原はやはり暑かったし、どこにでもある雑草を掻き分けての調査にそれほどわくわくするような期待感はありませんでした。

ところが、1m四方の中にも植物の生存競争のドラマがあり、これが結構面白い。柵の外は青々としているのに、柵の中は意外にも茶色に枯れていました。これは春にわっと茂ったカモジグサが種をつけ、枯れはじめていたためでした。出番です、とばかり若いメヒシバが伸びはじめていました。根元には、日が当たらない悪条件の中でさまざまな植物がじっと待っていました。

昨年はオオアレチノギクやヒメムカシヨモギなど帰化植物が多くてちょっとがっかりしたのですが、今年はあまり見当たりません。もう生育に適した場所ではなくなったのでしょうか。雑草を刈ったり抜いたりすることは、そういう環境に適した雑草の生育環境をせつせと整えていることになるのかもしれない。面白いことに、林のアズマネザサが柵のところからツーツ地下茎を伸ばしています。人が通るところにはまったく芽は出てこないから不思議です。エノキ、アカメガシワ、ムクノキなどの木の芽生えもあちこちにありました。

実生も今すぐ抜きません。高木になるまで放置することはできませんが、灌木まじりの明るい草原の自然の価値を発見したいと思います。

公園や道端の植物が花をつけ種が出来て枯れるまで、その一生を見ることはあまりありません。生えたとすぐに刈ったり抜いたりされるためです。ありふれた草の生活をじっくり見ていくのも面白いですよ。興味のある方は秋の調査にはのぞきにきて下さい(坂本 郁子)。

乗蓮寺下池がピオトープでなくなった！

赤塚公園のあちこちで草刈が入り、予感がして立ち寄ってみたいら、湧水ピオトープの池周りが見事に草刈をされていました。

この場所は、前々所長さんからピオトープとして認めていただき、会で湿地をつくり、維持管理も会でやるという約束だったところです。作った後、管理所長さんから子供が入らないための対策（柵や注意看板の設置）や、ご近所に対する配慮などが指示され、それに従って柵や看板をつくったりしました。柵はだいぶ前に取り払われ生垣に。それもなぜかドウダンツツジ。私たちが好きにして良い場所とは思っていませんが、当初の趣旨とは別の管理がどんどん進められて戸惑っております。



公園のゴミ

10月のウォーキングを前に、ルートの下見をしました。赤塚8丁目の公園はいつもゴミが散らかっていたので、ゴミ拾いをする予定でしたが、ゴミがいっぱいあって下見とゴミ拾いの両方は無理だった。公園の外には冷蔵庫や家具などが放置。このほかのゴミポイントは赤塚5-26のマンションに接する道路と公園。ゴミ置き場から、風に飛ばされるのかカラスが散らかすのか、ゴミがいつも散乱していて、嫌だなあと思うところです。10月のウォーキングで、ゴミポイントワースト5を選んでみましょうか。

徳丸が原公園の池がまた壊された

悪質ないたずらというより、破壊されて修理したばかりの徳丸が原公園の池がまたまた壊されました。大西さんが修理して下さいましたが、犯人は怪力でなければスコップなどの道具を使うなど計画的。この破壊エネルギーを自然を守ることに使えばいいのに。それにしても丸見えのピオトープの維持について、考え直す必要がありそうです。



活動のお知らせ

- 運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。
 10月運営委員会 日時：10月5日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター
 11月運営委員会 日時：11月2日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター
 ●会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく
 日時：11月15日(木)17:30~ 場所：エコポリスセンター

●ウォーキング打合わせ

日時：9月26日(水)18:30~20:00

場所：産文ホール第4会議室

内容：ルートや役割、当日の看板等を確認します

連絡先：瀬田(3969-7124)

●秋の鳴く虫観察会

荒川の河川敷にはカンタンがいます。

カンタンやコオロギの声を聞きながら風流なひとときを過ごしませんか。

日時：10月6日(土)18:00~20:00

場所：荒川生物生態園

舟渡斎場前の土手(または高島平から出ている浮間舟渡行きのバス停に17:30集合)

持ち物：図鑑、懐中電灯、好みの飲み物

連絡先：釣巻(3961-2875)

●草原ピオトープ秋の植物調査

日時：10月7日(日)10:00~12:00

場所：赤塚公園城址草原

持ち物：図鑑、ルーペ、ノートなど

講師：島井 誠司

その他：小雨でも実施します

連絡先：坂本 090-4618-1295

●ウォーキングルートの観察会

自然発見ウォーキングの下見を兼ねて秋の赤塚公園の観察会。夕方からイッパイ飲みながら城址草原の鳴く虫・鳴かない虫を観察します。ウォーキングのお手伝い下さる方は来てね。

日時：10月14日(日)13:30~18:00

集合：美術館前

連絡先：瀬田(3969-7124)

●工作コーナー見本づくり

10月のウォーキング工作コーナーの試作品づくり。手仕事が好きな方よろしく

日時：10月20日(土)10:00~12:00

場所：美術館横の池

雨天の場合は美術館の軒先

連絡先：大西(3938-3106)

●自然発見ウォーキング本番

日時：10月28日(日)

詳細は本誌表紙を見てね。

●上高地の自然を訪ねる会

日時：11月9日(金)~11日(日)

泊りがけで上高地の自然を訪ね、地元の景観保全活動にも参加します。

詳細は坂本 090-4618-1295